

# JWCSが野生生物保全を目指すに至った背景

## 1. 野生生物そのものが持つ価値

40億年におよぶ歴史を経て進化し続ける野生生物は、将来世代まで含めた人類の物質環境を支える生命維持装置、豊かな精神活動と多様な文化を生み出す源泉というだけでなく、その存在自体に人間による価値評価を超えた尊厳が認められるべきものである。

## 2. 野生生物の絶滅を人間が引き起こしている

人間はこれまで野生生物を利用の対象としてきたが、利用の質・量の発達によってあらゆる地域で野生生物を圧迫するようになり、今日に至っては、経済活動のグローバル化が加速度的にその度合いを強めている。

その結果、野生生物の地域的退行および絶滅を連鎖的に引き起こし、生物種そのものも急速に失われつつある。数百万から1億以上とも推定される生物種は、現在、人類登場以前の1000倍から1万倍のスピードで絶滅していると考えられている。

## 3. 日本に求められる責任

残念なことに、このような人間活動の負の側面には、日本政府の政策、企業活動および消費行動が少なからずかかわっている。このような現状を改めるための野生生物保全のためのさまざまな活動が、日本に強く求められている。



## 日本の非政府・非営利組織として、野生生物の保全を目指す

人間の自然環境を守るためにも、野生生物界が健全に維持されることは必要不可欠である。野生生物は多様であるから、人間との共存を達成する方法も様々だろう。中でも日本が野生動植物を商業的に利用することでその存続を危うくしている野生生物種の保全を中心に、緊密に連携しあう実践と理論の構築を行う。

# JWCSの目指すゴール、使命、基本原則

ゴール	<p>◆ &lt;野生の世界は野生のままに&gt;</p> <p>理論に基づいた野生生物保全活動を実践し、人間の活動が野生生物の自立的な存続と自己運動的な進化を妨げない、人間と野生生物が共存する世界の実現を目指す。これは、人間にとっての好ましい自然環境を守ることに繋がっており、人間の新しい文化形態を展望する試みでもある。</p>
使命	<p>◆ 野生生物保全の「実践的な理論」を打ち立てる。 (※実践的な理論とは具体的な問題との相互照応を通して構築する理論)</p> <p>◆ 諸団体・機関に、課題や具体的指針を提起する。</p> <p>◆ 政策提言を行う</p> <p>(設立趣旨書より)</p>
基本原則	<p>1. 生態系は人類生存の基盤であることを認識する 人類の生存は地球の生態系に支えられている。それを認識し、人間と野生生物が共存する世界の実現を目指す。</p> <p>2. 安易な人為化を避ける 野生生物が保全されている状態は、それぞれの種の維持が十分はかれるだけの地域および母集団となる個体群が多様に保存されている時である。その実現のためにとくに重視するのは次の2点である。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 自然生態系が健全に機能し野生生物界を支えている地域を現状以上に人為化しない</li><li>・ 絶滅危惧種、礎石種(キーストーン・スピーシーズ)、被覆種(アンブレラ・スピーシーズ) および各地域における固有種の個体について人為的除去を原則的に回避する</li></ul> <p>3. 予防原則を徹底する 野生生物が深刻な退行を余儀なくされるとその回復は著しく困難になり、さらに生物種が失われるに至ればその復元はもはや不可能である。人間活動が行われるにあたり、野生生物の状況に関する不確実性あるいはその人間活動が野生生物界に与える影響の不確実性が認められる場合、常に野生生物の利益になるような意思決定を求める。</p>